

「国立台湾大学スプリング・スクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部4年 長友剛輝

① 学習成果

今回のスプリング・スクールは私にとって二度目の台湾経験であった。前回は昨年11月実施された経済学研究科のプログラム(約1週間)であり、二度目に当たるこの短期語学研修へは中国語能力の向上を第一の目標に参加した。結論から言えば、もし同プログラムを利用して語学能力に磨きをかけたいという人がいれば、国立台湾大学が提供する授業のほかに自主的に学習機会を見つけなければならないということが言える。平日朝9:00~12:00の間行われる授業だけでは習得できる文法・語彙の数も限られ、すでに日本で基礎的な文法を理解している学生にとっては物足りなさを覚えるかもしれない。私個人の例を挙げれば、キャンパスまで歩く毎朝40~50分間に中国語の本を暗唱したり、放課後図書館で中国語字幕の映画を見たりして授業以外にも語学に専念する時間を設けていた。国立台湾大学のホームページを見るとこのスプリング・スクールは「語学&文化」をテーマとしており、台湾に訪れるのが初めてというような学生に中国語授業を提供したり台湾文化を体験(故宮見学、台北近郊日帰り旅行等)するのが主な内容であるということがわかる。これから私は大学院で台湾を含む東アジア経済を研究することを企図しているので、是非再度台湾を訪れる機会があれば国立台湾大学が他に提供している更に専門性の高いプログラムに申し込むことを考えている。

② 海外経験

3週間の内授業の無い放課後や休日を利用して台湾各地を訪れることができたのは非常に良い経験となった。前回11月に初めて台湾を訪れたときは「ニーハオ」「謝謝」程度しか話せなかったが、付け焼刃ながら事前に勉強した今回は飲食店での注文や簡単な日常会話など最低限のコミュニケーションを中国語で行うことが可能になった。また休日には基隆・台中・南投・台南など台北以外の地方にも足を運び、台湾という九州程のサイズの島に大きく異なる文化・言語を有する人々が混在していることを自身の目で観察することができた。

③ プログラム内容

先述の通り平日9:00~12:00間は中国語授業(レベルに準じて4クラスに分けられる)を受け、午後は国立台湾大学の教授の講義、文化体験、日帰り旅行がスケジュールとして組まれていた。正直国立台湾大学側が学校の授業のみならずツアー・台湾における生活全般に至るまで手厚く行き届いた配慮を施してくれたことに対しては頭が上がらない気持ちで一杯である。

④ 進路への影響

今回の3週間の滞在を通して、大学院において台湾経済を研究対象とすることへの興味がさらに増した。注意深く観察すればするほど、複雑に折り重なっている複数のパーツにより台湾という社会が構成されていることがよく見えてくる。またオランダ人が中国沿岸から漢人を入植させて以来、台湾の歴史400年間に常に海外勢力により規定され影響を受けているという事実は世界のグローバル化を考察する上で欠かせないと思われる。経済学研究科に進学してからは今回の経験を基盤として、更なる中国語能力向上・知識吸収に邁進したいと思う。